

学校の教育目標	未来志向で考え行動・挑戦する児童の育成 【めざす子供像】 ○自分で考え、行動できる子 ○相手の立場を理解し、互いに協力し合う子 ○見通しをもって、挑戦しようとする子 ○学校や地域を愛する子	経営理念	チーム風早小で進める学校運営 ① チャレンジ……………目標に向かって挑戦する児童・教職員 ② チェンジ……………アンテナを張り、時代を読み、変革する教職員 ③ コミュニケーション……………学校・家庭・地域が一体となり前進するコミュニティ・スクール
---------	---	------	---

評価計画					自己評価				学校関係者評価 ※学校の自己評価に対する評価			改善方策		
中期経営目標	短期経営目標	評価項目・指標	目標値	目標達成のための具体的な方策	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価			コメント	改善方策
					10月	2月				A	B	C		
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	【研修テーマ】 「わかった」「できた」が実感できる算数科の授業づくり ～低学年段階からのつまずきの把握・個別の学習支援を通して～	80% ★	・外部講師を活用し、校内授業研究年間1人1回以上行う。 ・各学力検査等の結果から改善計画を各学年で立て、実践する。	83%		103%	3	模擬授業や授業研究を通して、外部講師の助言を聞きながら、個別の学習支援について協議した。また、達人テストや学力調査の結果から授業改善に向けて手立てを考える時間を設定し、授業改善に生かした。10月での算数科における単元末テストの正答率80%以上の学年は、6学年中5学年である。					
		ICTの効果的な活用	85%	・ICTを活用した校内研修を年10回以上行う。 ・児童に対して、市主催のICTコンペ、タイピング大会への参加を促す。 ・効果的な活用事例を蓄積し、共有化する。	100%		100%	3	ICTを効果的に活用した授業を週一回以上行っている職員の比率は100%である。市主催のタイピング大会への取り組みが昨年度より大きく進んでおり、基準値を超えた児童が多数出ている。4年児童が市で一番になり表彰を受けた。校内研修では授業や家庭での効果的な活用法についてさらに実践交流をしていく。					
豊かな心	向上の変容をめざす集団づくり	風早プライドの徹底(挨拶・返事)	85%	・全校朝会で、児童会による振り返りを行う。 ・学級で月ごとの振り返りを行う。 自己評価 ……毎日 相互評価 ……月1回 →肯定的評価85%以上	92%		108%	4	児童会を中心とした、毎週水曜日のあいさつ運動や毎週木曜日の「はてなほーいすチェック」により、あいさつを進んで行う児童が目標値85%を上回る92%であった。しかし、学校外で自ら進んであいさつをすることができると答えた児童は全体の88%と少し低かった。 今後は、学校に地域の方々が分かるポスターを掲示する計画である。					
		読書習慣の定着	85% 80%	・本を読むことが好きな児童の自己評価85%以上 年間目標読書量(60冊以上)を達成した児童の割合80%以上	74% 62%		87% 77%	2	朝読書の徹底や図書委員会の取組により、本を借りに来る児童は増えているが、読書量の多い児童と少ない児童との差が大きい。また、学年によって本を読むことが好きな児童の割合にばらつきがある。より多くの児童が本に興味をもてるよう、学級で図書室に行き本を借りたり、読んだりする機会を増やしていく。					
健康でたくましい体	成長を実感できる体力・健康づくり	運動に係る自己記録の更新	80%	・水泳、なわとび、持久走の各カードを合わせた挑戦カードによる記録更新を目指す。(前年度、計測1回目の記録を更新) ・「ボール投げ」の記録計測年間2回実施(6月、2月)各自で目標を設定し、記録の更新を目指す。 ・ボールに触れる機会を増やす。	76%		95%	2	児童に昨年度の体力テストの記録を配布し、そこから目標設定させた。また、昨年度より記録が伸びた児童は75.9%であった。後期で使用するなわとび・持久走カードの記入項目や、使用の仕方においても昨年度の記録から目標設定を行い、児童が目標意識をもって取り組めるようにしていく。					
		基本的な生活習慣の向上	80% 80%	「自分が決めた就寝・起床時刻を守る」児童の割合80%以上 「自分が決めたゲーム遊びの時間、メディア視聴の時間を守る」児童の割合80%以上	76% 91%		104%	3	昨年度に引き続き就寝時刻が課題であった。決めた時間を意識できるように、1日の生活の計画を立て見通しが持てるように表示した。また毎月の保健だよりや委員会を通して生活習慣の重要性について伝えた。今後も生活習慣を見直すことで自分の健康を大切にしようとする意識が持てるよう児童や家庭へ啓発していく。					
開かれた学校づくりと働き方改革	コミュニティスクールの充実による学校、地域への愛着と誇りの育成	母校・地域に愛着と誇りをもたせる「地域貢献型の生活科・総合的な学習の時間」の推進	90%	・MTの招致を各学年2回以上実施する。 ・地域との連携活動を各学年1回以上実施する。 ・C.Sの校内研修を実施する。 ・C.S連絡会の定例化と、C.S推進員や地域学校協働活動推進員との連携を行う。 ・学校だより、C.Sだよりを月1回発行する。	95%		105%	4	地域への愛着度は、98.1%で、見守り隊をはじめとする地域ボランティアの存在が影響していることがわかった。 年度当初の計画をもとにCS推進委員と連携をして、MTの招致をしており、後期も積極的に実施する予定。 毎月C.S連絡会を実施し各学年の進捗状況を把握するとともに、学校だより、C.Sだよりを月1回発行した。					
		働き方改革と業務改善の推進	90%	・平日の最終退校時刻を18時、水曜日は、原則定時退校とし、超過勤務を毎月45時間未満とする。 ・業務改善、業務削減に係る意識調査を7月、12月、3月に実施し、企画委員会等で協議し、実施できることを全職員の共通認識のもと取り組む。	100%		111%	4	働きがいに関する意識調査を実施したところ、働きがいがあると感じている教職員は100%であった。今後も風通しの良い職場づくりを全教職員で取り組む。 職員の超過勤務時間の平均は、32時間(9月末)であった。業務の優先順位をつけるとともに子供と向き合う時間を確保していく。 業務改善に向けて実施できる業務について、共通認識のもと取り組んだ。					

評価★ 4…目標を上回って達成(5/6学級以上) 3…目標どおりに達成(4/6学級)
2…目標をやや下回って達成(3/6学級) 1…目標をかなり下回って達成(2/6学級以下)

評価 4…目標を上回って達成(110%～) 3…目標どおりに達成(90%～110%)
2…目標をやや下回って達成(70～90%) 1…目標をかなり下回って達成(～70%)